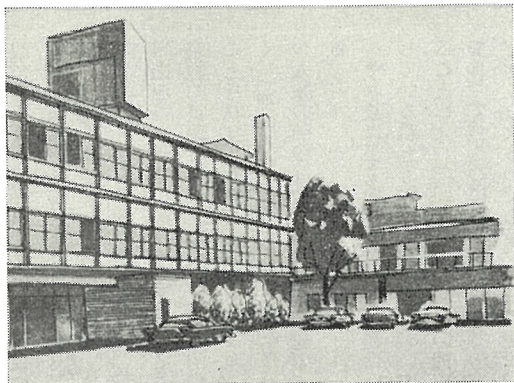


座談会

「同志社における人間形成」

人間形成

場所・東京・麻布・国際文化会館



司会者 同志社大学教授 住谷悦治
出席者 東京大学教授 嘉治真三
専修大学教授 田辺繁子
立教大学教授 メリット
衆議院議員 戸叶里子
上智大学教授 小山市三
同志社大学長 上野直蔵

(順不同)

司会者 座談会の主題は「同志社における人間形成」ということですが、これに限らずあらゆる角度からいろいろのお話をお伺いしたいと思っております。同志社では新島精神といわれておりますが、もしこれを現代に生かすならどういう形で生かすのか。また新島精神あるいは、同志社スピリットが教育上の特質となっているものはなにか。また同志社のキリスト教徒は、割五分から二割とその数は少ないのですが、クリスチャン・カルチュアという点では同志社には何か特徴があるのではないか。

そしてまた官学に対して私学は社会にいろいろな知識人を送っていますが、同志社もその一環として実際に社会に役立つた多くの有

能な人を送り出しています。この中には有名な人はもちろん、有名でない人も社会の各方面で、同志社スピリット、あるいはクリスチャン・カルチュアをもって何かの形で活躍していることは事実だと思っております。

戦後において学生の状態は全く以前と違っていろいろあります。学内でも充分反省をされていることも多々ありますが、この点、学外の方々からのご批判を頂きたいと考えております。どうかこの座談会で忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

上野 ただいま住谷先生からご挨拶がございましたので、重ねて私がお挨拶申し上げることもありません。私は「国づくり、人づくり」というような表現を好みません。なぜ改めてこんなうたい文句をもち出さねばならないのか。その意図が判りません。本日のこの座談会の内容は、ただ今、住谷先生からお話のあった通りでこの「人づくり」に関係はございません。せっかくお忙しい中をおいで下さいましたので、思う存分におっしゃっていただけましたらありがたいと思っております。

司会者 嘉治さんから何か一つお話し願いたいと思います。

嘉治 私は本当のことを申しますと、同志社の内容をあまり知らないのであります。ただ、私の個人的な同志社との関係を簡単に申し上げてみたいと思います。

私は西宮の生れなので、京都の同志社の名は、子供の時から聞いておりました。中学から東京にまいりまして、これは私の間違いかも知れませんが、その頃よく読んだ徳富蘆花のものの中の「思い出の記」に出てくる学校を、その時勝手に同志社ときめて読んだのですが、今でもそうじゃないかと思っております。私はよく神田の学士会館へ行きますが、あそこには『新島襄誕生の地』という碑があるのを見るときに「思い出の記」を思い出します。私は東大を出ましてからすぐ大阪商大へ参り



住 谷 教 授

ましたが、私の学生時代に、私の兄が住谷先生や林要さん、波多野鼎さんたちと「社会思想」という雑誌をやっていましたので、住谷先生のお名前をよく存じておりましたし、それからお話やお書きになったものを拜見したり、時にはお目にかかることもありまして。そしてその方たちが同志社にいらっしゃることを聞き、同志社に関心をもつようになったのだと思うのです。

それから昭和十六年に私がアメリカへ行くことになり生島吉造さんに英会話の先生を紹介してもらいましたが、それがアームストの交換学生だったジョン・W・ホールさんであり、その時にメリットさんにもお目にかかったと思います。また難波紋吉さんから、女学校にいらしたデントンさんに紹介していただき、沢山のアメリカの人にお会いしたことを覚えています。戦後、大阪商大の人達では、小松幸雄さんとか木村喜一郎さんとかそういう人たちが同志社へ行かれました。

これまでは個人的な関係でしたが、多少とも公的な意味で同志社と接触をもちましたのは、一九五〇年、ロックフェラー・ファウンデーションの資金を受けてアメリカ研究夏期

セミナーを東大で始めまして、二年目の年に、東京で四週間セミナー、あと一週間をどこかの大学にもつていくということで、初年は北海道大学へ行き、次に京都大学と同志社大学との共催でその仕事に参加していただきました。この時初めて上野先生にお目にかかったんですが、このセミナーは一九五六年まで続けていましたが、のち東大ではアメリカ研究センターが設けられ、京都では独立して行はれるようになりました。

こんな関係から同志社の方々ともいろいろと交渉がありました。同志社について批評めいたことは言えないのですが、伝統的に外国文化の交流ということについては、よくおやりになっていると思うんです。そのセミナーの経験から申しまして、京都で同志社と京大との両方でやって下さったのですが、イリノイ大学のデインジャーフィールドという人が計画し、後にミシガン大学と共催ということになったと思いますが、前からの関係で、これに参加した人達が東京へ立寄ったときにいろいろと話をしてみますが、ほとんどの人が、同志社との協力は非常に愉快だったといつたことを覚えています。これはやはり根本



嘉治教授

的には官学と私学の違いで、私学の強みというふうなものが、そこに出ているのではないかと思います。私自身が東京大学におりますが、このころスタンフォード大学の Stanford Center in Tokyo というのができて、それを助けるために早稲田、慶応、日本女子大の方達と接触する機会があるので、一般的に官学と私学というものを比較してみますと、私学の方が手取り早く物事が進められるような感じがします。官学はいろんな形式がかたまっていて、一つのことをやるのにいくつもの会議を経なければならぬので、なかなか進まないと思うのです。こういう私学の一般的な強みを、同志社もしっかりと維持している、大いに発展していけることが望ましい

と思います。

司会者 私学の一つの道が判って結構でした。では田辺さん……

田辺 私は同志社が好きなものですから、あまり欠点が見つからないのです。今はどういうふうな同志社になっているか分らないのですが、私はやはり同志社へ入って人柄が変わったと思うんです。それはやはり毎朝の礼拝の影響なんですね。私の兄弟は公立の学校で勉強しましたが、妹はわざと同志社へ入れたぐらいで、毎日なんとはなしに、宗教的な雰囲気から受ける影響に知らない間に人間が随分変えられたと思っておりました。知り合いの方が、「あなたのお母さんが、あの子は同志社へ行ってからまるで人間が変わった」といつてられたと云われたのを聞いて、やはり変わったのだと思いますね。

新島先生が、生徒を叱らず自分の手を管でお打ちになり、管が折れた話をよく聞きました。が、キリスト教というのは、ああいうふうな非常に自己反省的で、正義というものに敵しいものなんではないかと思うんですね。ですから今まではやばやと生きていたのが、非常に反省させられ、新しく生きようとする感

覚をもたされたことを非常に感謝しております。そういうふうな皆の感覚が統一されているのが同志社の強みです。普通の大学ですと高等学校からのお友達はあっても、大学ではないということですが、ところが同志社では予科に入ってからずっと大学まで一緒ですから、クリスマス・イブとか、創立記念日、イブ音楽会なんかがあって、男女の学生が共に同志社チイアを歌うというような盛り上ってくる愛校心の一体感というふうなものがあつたので、天にも昇るような気持ちがあるので、学生のころ、京大のお友達なんかを同志社へひっぱっていったのですが、羨みましたね。われわれは高校時代には友達がいられど、大学に入ってから友達がいない。同志社の人は羨しいなあ。

宗教的なバックと、先生方にまたとてもいい先生が多かったのですね。私共は先生のお家へ遊びに伺ったことなども、非常に影響を受けています。宗教的教育というものの結果かどうかは知りませんが、同志社の英文科の出身の方たちとクラス会をいたしましたも、なかなか話題がつきません。そういう人達は人の着物なんかには無頓着で、去年の

クラス会でも、今年のクラス会でも、同じ服装をしているという人も集っているんです。それは皆が云うことなのです。同志社の会は楽しくって話題がつきないので、いつまでたっても時間が足りない気がするんです。

結局、同志社でうけたキリスト教々育の尊さというのか、自主性といえますか、自分というものはつきり確立した人間を造って頂けたのじゃないかと思えます。在学当時は先生に叱られて、追いかけて回されて、礼拝は遅れて、逃げるいっぱいだったんですけど……。

司会者 次はメリット先生。

メリット 傍聴者の形ならば、座談会に参加させてもらい、お役に立てるかと思えますが……。私と同志社の関係は、戦争前、いわゆる

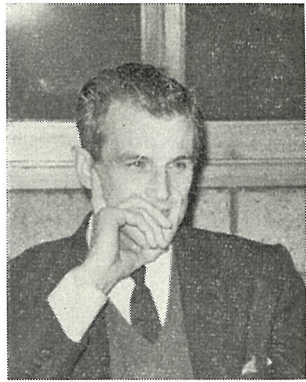


田辺教授

アーモスト大学の代表として、二年間、同志社で楽しく生活させていただき今も感謝しています。不肖の息子で本当に同志社のことを忘れがちですが、今は立教にいますが、これもあまり真面目な立教人ではありません。時には授業をさぼったりするものですから。ただいま田辺さんのおっしゃった同志社カラーですか、この色彩というものは確かにあると思うのです。私は同志社を離れて東京にいるものですから、くわしくはわかりませんが、学生の数も以前にくらべると、倍にも三倍にも増えて、そのために同志社の特色を失うことがないかと心配します。今の同志社の教育方針は、どうだろうかということを考えるのですが……。

司会者 お話の通り同志社でもその点は問題にしております。それでは小山さんに一つ。

小山 私の出ました中学は、非常に軍国主義的な教育をした学校でした。そんな学校から同志社へいくと、がらりと変って、私自身その変わり方に驚くと同時によこんでいたわけです。当時は五年で卒業できたのですが、卒業の前年のクリスマスに洗礼を受け、クリスチャンになったのです。その後は聖書を時々出して読むていどであります。さて、この状態をどう解釈したらよいか知りませんが、自分でも信仰うすき者よといいたくありません。それで先程からお話のあった人つくりの問題ですが、実は私は左翼の人の本をよく読むのですが、中には同志社の出身者があり、例えば山川均の「ある凡人の記録」ですが、ああいうものを読みますと、彼が一体同志社について、また新島精神についてどういう印象を持っていたかということに、私が非常に関心を持つのです。新島先生の伝記については、在学中は水崎先生に倫理の時間に講義していただいたし、それから、新島先生の英文の伝記を読み、先生に函館を出てアメリカで修業しようとした決心された動機、アーモストなどで勉強されて帰国の上、同志社をつくらうと決心されたことを知りました。当時の日本の状況ですが、考えて見ると新島先生の精神というものは、当時いわれた富国強兵、殖産興業などの言葉に邪魔にならない精神だったという気がするのです。その時分に学んだ徳富兄弟だとか、小崎だとかがありますが、幸いにもその当時の学生には、日本あるいは世界というものの、いくべき方向の可能性がわ



メリット 教授

かっていたのですね。ところが現在では、事情が大分違うのではないかと思います。つまり、何か一つの方向が定められていたような気がする時代と、今の混沌として何ら予期することのない時代の違いがある。先程山川均のことを云ったんですが、彼のごとき唯物弁証論でこり固まった人が、新島精神に渴仰しているというか、あこがれをもって。これが面白いのですね。そこが私は同志社というものの一つの骨じゃないかという気がするので。キリスト教の教えは新島先生の全人格に深く入っていたのでありましようが、先生に魅せられたのは、学生の個性によって異なった角度からであり、この異なった角度に先生の手がかりが、やはり各学生の終生を動か

す力となったと思うのです。深井英五のごとくキリスト教から遠ざかった人も、山川均のごとく全くこれと相入れぬ立場にあった人も、新島先生に対する尊敬の念は厚かったところに、新島先生のキリスト教主義教育の広さを感じるのです。

司会者 先程からいろいろのお話を伺ったのですが、メリットさんから同志社に何か特色があるのではないかと、またその伸すところはどうなるところかということ、また田辺さんは同志社カラーというものが非常になごやかなものに繋がっていて、官学では見られないようなものをもっていること、また嘉治さんはご自分と同志社の関係、同志社に関係のあった人たちとの良心的な結びつきがあったことですね、そして今小山さんからは、新島精神がどのように影響したか、というようなことをお話しを願いましたが、同志社を出て代議士としてお働きになっています戸叶さんをお願いしたいと思います。

戸叶 私は学校にいたる当時は同志社に対して有難くもなかったのですが、卒業してみますと本当に同志社ついでいいところだったなあと思います。それで今は周囲の人にできるだ

け同志社で勉強するように薦めたい気持ちです。

なぜかと申しますと、同志社にいるときは普通の大学にいるという気持ちでしたが、出てみると、叱られたこともほめられたことも、みなとても味があります。その一つの例として、予科にいるときデントン先生は大変厳しい先生でした。私達が礼拝にいかないと追いかけてきて押入の中まで探して(笑声)あるときは靴をとられ、その靴を職員室へ取りに来いと叱られ、取りに行ってもそこでお説教というふうだったので。それから同志社のカレッジ・ソングを何日までに暗記してきなさいと、おぼえて行かなければ立たされ、校歌ですから憶えなければならぬのですが、先生が恐くて憶えちゃったんですが、やはり、こんなことが印象的です。

デントン先生は本当に真心のある方で生徒を真底から愛し、これほど生徒のことを考えたい先生はないのじゃないかと思えます。例えば先生は市内の電車に乗ってらしても「男立ちます。女座ります」といって、気の毒な婦人をいたわり、先生にアメリカから沢山お金がかけても、そのお金をみな気の毒な人々に与

え、自分はいつまでも粗末な黒い洋服で、絹の靴下などは貧しい人を救っていらしたんですね。そういうご自身の生活態度を通して私たちに説明されたのだから、自然に私達に訴えるものがあつたんだと感じます。

戦争の最中に外人が迫害され、スパイ扱いをされたときも、日本がよくなるためにやりたいのだといって、ご自分の庭先に野菜を作っておられました。戦争中、私が伺ったときはやせておられ本当に苦労されていられたのですが、それでも平和のためにとだけおっしゃっていました。私はこういうデントン先生がいらしたということが、生徒に卒業してから非常にものを考えさせる教育となつたんじゃないかと思うんです。よく私達集まりまし



小山 教授

ていろんな話をするのですが、デントン先生に叱られたということが今は本当に楽しくて、本当にあれだったからよかつたのねということを話すんです。

今こういうふうな時代が変り、自由というものと放任が混同されているときでも、もしあのデントン先生がいらしてその教育を受けることがあれば、きっと何かを得て卒業するんじゃないかと思えます。それはデントン先生の誠実、正義と、本当に何もかも捨てて教育にうちこんで下さった同志社精神、その熱意が実を結ぶんだということを、私はつくづく考えるんです。

もう一つの思い出としては英文学で栗原先生や、柳先生なんかに習つたんですが、学問以外に人生の問題を話して下さった。こういう授業は忘れられないと思うんです。そういうことが卒業しましたから、頭の中に繰りひろげられます、それが非常に役に立つように思ふのです。私達のような仕事をしていますと、毎日どうしていいかわからないような問題にぶつかりますし、一体これが国にとつて、どうなるんだらうかという場面に直面することがあるのです。そんなときに同志社で

キリスト教主義の教育をうけてきたということが、随分役立つております。どこに一体まつぐな道があるのかと、静かに考え直すゆとりを持てるのが、同志社教育じゃないかと思うんです。

今の大学教育は非常に難しく、学生達も政治、経済、国際情勢を見つめながらの勉強ですが、その中にあるもやはり方向を失わないために、デントン先生が実践されたような同志社精神、キリスト教精神をもって社会に処していくという教育を、ぜひしていただきたいと思ひます。池田さんの人づくりを批判するわけではないのですが、ただ方向を与えない人づくりには賛成できないと思ひます

司会者 まあいろいろと伺つていろいろうちに、同志社というものの意義が本当にあるんじゃないかというような感じがして、非常に自信がもてるような気がいたします。

小山 先程申しました左翼の非常にこりかたまった人が、同志社を出まして、そしてその人が同志社を思い起して懐しんでいるその気持を分析していかねばならないと思ひますね。ということは世の中は残念ながら左にしか行かんと思つております。だんだん左



戸叶代議士

に行く、そういう時に処して、学校がおおしき残りうるためにはですね。現在左翼の連中がキリスト教的な訓練を受けて、それにどういふ影響をうけているかということ、分析するほか手がないですね。

それから経営者と云う言葉はちよつとまずいのですが、海老名さんが昭和四年東京へ移られるときの京都駅頭で、学生に送別の辞を述べられた時に、「同志社は教授と学生でもってやらなければいけない」ということを、強く主張されたという記録を見たのですが、これは正に至言だと思ふのです。そのときにいわれた教授というのは経営者なんです。私というのは、教授が一体となって犠牲的なスピリットを持つていなければだめだということ

とです。

司会者 上野先生、いろいろの同志社に対する忠言をいただいたのですがなにか。

上野 そうですね。私のように四十年も同じところにいると、移り変りがわからないのですけれど。(笑) 人間形成というものは、旧制大学におきましても、人間形成は大いにやつたことと思います。ところが戦後新制大学の制度になりました、一般教育科目ができ、これに外国語、保健体育を加えました、いわゆる一般教育科目によつて人間形成を行なう、新制度はこういうことをうたつていっているですね。

この一般教育というのはアメリカから入れたもので、戦前の日本の大学制度というのは主としてドイツの大学制度でした。したがつて一般教育というものが日本ではまだよくわからない。これは国立大学協会が三十七年の三月でございましたか、意見書を出しておりませんが、事実はその通り行なわれている大学はどこにもありません。例えばアメリカでありますら、ノーベル賞を貰つたオツペンハイマーならオツペンハイマーが、一般教育の物理学を担当するというようなことをやるん

ですけれども、一むろん私どもの方でも住谷先生に一般教育の経済学を担当してもらつておりますが、しかしそういう先生はきわめて稀で、いわゆる先生になった卵ぐらいの人が、一般教育の人文、社会、自然科学の担当をしているというような現状で、一般教育そのものがまだ大学制度の中に消化されていない、というのが一般的情勢であると、私は思つております。

同志社はよくミッシヨン・スクールと間違えられますが、同志社はミッシヨン・スクールではなく、徳育の基本をキリスト教主義におくというのであります。このことは旧制大学の時代でもうたつていた同志社の憲法でございますし、人間形成ということは新制大学になる以前から同志社では熱心に行つていたということはいえらると思つておられます。

ところでちょうど田辺先生といつしよに大学をご卒業になりました三上という方が、この方は経済学科じゃないかと思ひますが、今は南海会館の重役をしていらつしやいます。この人が病気になられ一年ばかり寝ていらつしやつたときに、いつも夢に出てくるのは同志社と嵐山の風景である。病気がなおつたら

同志社へ行ってそれから嵐山へいきたいと病
床でいつも願っていられたそうです。一年余
りのうち病気がなおり、それで車で同志社の
キャンパスに来て、じっとしていたら気持が
すつとしたというお話をききました。

先程来先輩の方々から昔の同志社でうけら
れました教育のことを伺いまして、現在の同
志社がはたして昔の卒業生の方々が持つて出
られたような印象を与えているだろうか。も
ちろんこれは在学当時にそのような影響、な
いしは教育効果を得たと気づくものではない
と私は思います。

今日では昔のように少数の学生ではありま
せん。従って昔ほど手のこんだ教育ができな
い。又、先生と学生との接しよくが密でな



上野学長

い。ということは事実であります。しかし、
この悪事情を、いろいろの方法で改善しよう
としています。たとえば、今その一部ができ
上ろうとしています。新島記念会館が完成いた
しますと、教室で十分果たし得ない、先生と
学生との親しい交わりができませんし、同時に
自治活動を通してなされる人間形成をも大い
に可能となるでしょう。ともあれ、私学の新
制大学が大学基準に合致するためには、
実に莫大な費用のかかるものであります。こ
とに、経常費総額の中、人件費の占めるもの
は七十四%となりますので大へんなんです。
しかし多少の紆余曲折がありましても、新島
先生の大学設立の趣旨にありますとおり「教
育あり、知識あり、品行ある」人民の育成に
努力したいと思えます。

小山 しかし同志社も近頃は昔の面影をす
っかりなくしてしまいましたね。

戸叶 私はお金のない中で、いろいろとお
やりになっていらっしゃるので大変だと思っ
たのですが、その建物ということも影響するか
もしれませんけれど、小山先生のおっしゃる
言葉の中には、建物とか、クローバの校庭と

かを含めて、自分たちのいた時の雰囲気にな
いということじゃないでしょうか。難しい条
件の中で昔の雰囲気をつくっていくことは難
しいことですが、やはりそういうものは、
中に学ぶ人なり教える先生なりがつくってい
かなければならないのじゃないかと思うので
す。

東京の同じ官立の学校を出た友達なんかも
知っておりますけれども、そういう人とつ
きあってみると、そういう人達は、「ふくら
み」がないといいますか、コチコチといいま
すか、そういう人間性にかけているのじゃな
いかと思います。それはおしつけられた形の
教育をされて、ほったらかしといえればおかし
いですが、自由教育をうけなかったせいだと
思います。私は同志社の場合、徹底した自由
教育だと思えますが、その中に一本線が入っ
ていると思うのです。そういう教育がやはり
雰囲気をつくっていくと思えます。

田辺 いやみになるかも知れませんが、私
自身はどういうふうにも感じていないんです
けど、よそから教授陣がウィークだともよく
わかるんですね。ですからよい先生を集めて
いただきたいと思えますね。やっぱり学問を

ねらってくる場合が多いんじゃないでしょうか。今の学生さんはそういうことは好まないのでしょうか。

小山 いやそれはおっしゃる通りですね。

司会者 実際は高等学校の生徒が、同志社なら同志社、京大なら京大にどういう教授がいて、それでその先生を慕ってくるということとは今はないですね。

嘉治 皆さんは同志社の生活をなさった方ですが、ほかのものの立場から一口申し上げます、先ほどからお話ができていますように、私自身キリスト教の洗礼をうけてはいませんが、上野先生がおっしゃったとおり、キリスト教主義にもとずいた教育を中心に考えていくことは非常に必要だと思えますし、沢山ある大学の中にそういう大学があることがまた必要だと思えます。ことに人間形成の問題なんことにになると、結局先生と学生の接触が根本だと思えます。

ただそれが今の大学全体としてできうる状態にあるかという点、東大でも私はしょっちゅう反省するのです。私立大学ではさっき上野先生がいわれた財政の面にも非常にしぼられると思いますが、国立大学も含めて何と

いっても大学というのはオプティマム・サイズ(Optimum Size)があるんじゃないかと、この頃考えているのですが、あんまり膨大になつてしましますと、先程おっしゃっているように、求めていけば先生に接しうるといっても、求めてこられてもいちいち会つていた先生の方は何にもできなくなりませぬ。そういう点では大学制度全体として、考えるべき点があるんじゃないかと思えます。

小山 こういうことをお調べになつたことはありませんか。つまりキリスト教信者じゃないんだけれど、同志社の出身者で、そして新島先生というものに対して非常に尊敬の念をもっているような人。同志社はキリスト教主義の教育をしていても、キリスト教信者をつくる必要はないのです。そう云う雰囲気の中で、新島先生こそわれわれの尊敬する人間だという無神論者がでてきてもいいのです。そういうところが私は大切だと思えますね。

上野 大学は戦争前五十しかなかったのです。学生としても七万しかいない。今の大学は二百五十あり、短大をよせますと五百以上になる。学生数は八十万からおよそ百万になるでしょう。百万というと日本の人口がやが

て一億に将来なるでしょう。そうすると百人に一人ということになります。それほどなんですから戦前の大学生の概念で考えると……

田辺 戸叶さんのおっしゃったようにどの先生の講義を思い出してもよかつたですね。恵まれていました。人間形成とか人つくりなどと言わないで、私達は教養を身につけて行けました。

司会者 上野先生、大学の教授は四百人位おられますか。

上野 現在二百八十五人。講師をよせると倍ぐらいになります。しかしそれは東大とか京大とかに比べますと少ないのですが、私学としては、学生数に割り当てて先生の数が多き方です。学生は一万二千人。だから前でございますと、女子を合わして三千か、三千五百位でございますね。だから四倍ぐらいになっております。先生は四倍ぐらいではききません。七倍か八倍になっていきます。

司会者 最後に一言づつ、まとめの意見をお願いします。

嘉治 今日同志社について色々教えて頂いてありがたうございました。私としては同志社についての知識をましたことは大変な収

獲でした。要するに先刻上野先生もいわれましたように、戦前五十年であった大学が二百五十にもなっているのですから、それぞれの大学で自分の大学の特色はどこにあるかを考へて、学校行政担当者も教授たちも、これを生かして行くにはどうすべきかを、時々反省して行くことが必要なのではないでしょうか。

田辺 現在の同志社が非常に大きく成長したことを今も伺いましたが、それでもなお、前のような同志社らしい同志社であってほしいというのが私の願いです。必ずそれは受けつがれてきているし、今後も伝えられて行くものと私は信じています。しかし、建築の形や配置、クロバーの校庭等の人格に与えた影響、教室その他で行われた教授と学生の交流の有難かつた思い出等を考え合わせますと、こうした点に一段と努力と配慮をお願いしたいと思えます。良心的な同志社マン、同志社ガールがつづいて出て下さることを期待しています。

メリット 池田さんの反響、人づくりとゆうお考えは、批判又は軽蔑されることをみて、そこでまた考える余地があるのではないでしょう。確かにそう言ったような理念、又は幻はあった方が良いでしょう。但し人づくり

と言う幻を実現せしめるコースは、つまり我々人間だけの努力によって実現され得るのでせうか。ですから人づくりと言うより、人間を改めると言うような狙いであるなら良いでしょう。そう言うお考えなら全く人の工夫によるものではなくて、何らかの人間以外の力に訴えることになるでしょう。私はそのような——人間以外の力——を借りないならば人づくりなどと言う事は考え得ないと思えます。それで同志社のスピリットと言うと、元来今言ったような人間以外の、早く言えば聖霊の力と申しますか、何と申しますか、そのような力に依存するか、根ざしているという様に考えます。そのスピリットを回復して欲しいのです。つまり同志社は文字どおり、一心同体として一つの目的に向って、かかるスピリットの力によって、一致親愛する精神を改めて欲しいと思えます。そう言った人間つくりの方向に、大いに努力するのが同志社にとって正当な歩みではないでしょうか。

小山 私は、「信仰うすき者よ」とお叱りをうけるほどの信仰しかないクリスチャンですが、しかし、それさえ、同志社生活の賜と思っています。ところで、同じく同志社をで

ても、無神論者又は甚だしい場合は反神論者で終った人でも、社会的にすぐれた人のあったことを申しましたが、これらの人がそれぞれ自伝のなかで、新島先生に対して最高の尊敬を表明していることは、「同志社における人間形成」について特に留意すべきことであると思えます。つまり「キリスト教的」という表現はかなり中のあるものだと思うのです。

戸叶 人づくりという言葉は悪用されれば為政者が自分達の思うようになる人間を作らうとすることに思えます。人づくりといふのは、自然のうちに自由な方法で自分に責任を持ちながら社会人としての道を歩ませる助言をすることであると思えます。ヒューマニストとしての芽をのばしてやることであると思うのです。母校の卒業生の中から多くの人々に無言の影響をあたえた新島先生のような方が沢山出てくることを今日最も必要であると思えます。

住谷 本日は皆様方より、同志社における人間形成の問題について、忌憚のない、しかも積極的なご意見をお寄せ下さいましてありがとうございます。では、これで閉会させていただきます。